

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23792654

研究課題名(和文)日本人家族との関係構築を中心とした外国人妊産婦のケアシステム構築に関する研究

研究課題名(英文) Construction of the nursing care system to foreign women during pregnancy and postpartum periods

研究代表者

蛎崎 奈津子 (KAKIZAKI, Natsuko)

岩手県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：80322337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、各施設の実情に合わせ効果的に実働する外国人妊産婦へのケアシステムの構築に向けた示唆を得ることをめざし、研究と看護実践現場が連動しながら方策を見出すアクションリサーチ法を参考とした方法論をもつ研究であった。A県内で外国人妊産婦が定期的に利用する施設の助産師とともに、外国人妊産婦へのケアの現状と課題、それに向けての対応策の把握に取り組んだ。その結果、個人内で蓄積されていたケア方法に関する知見のチーム内での共有と具体的な支援方策の見出しにつながり、個々の助産師における外国人妊産婦へのケアの関心の高まりや、ケアの質的向上を意識したかかわりを具体的に考えるという行動変容につなげることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is construction of the nursing care system to foreign women during pregnancy and postpartum periods. This research adopted the action research method. The researcher has grasped the present condition of the care and the subjects which they offer, with several midwives. The results showed that the knowledge which the midwife individual had could share now between a team. And midwives have discovered the concrete support policy. By that, midwives' concern about a care of foreign women during pregnancy and postpartum periods increased further.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：在日外国人 妊娠・出産 看護支援 助産師

1. 研究開始当初の背景

国際化が進行する現在においても医療現場では在日外国人妊産婦の看護はまだまだ発展途上であり、言葉の問題に対する支援策の検討が大半を占めている。日本人男性と国際結婚をして妊娠・出産するケースや留学生として日本に一定期間暮らすケースなど、出産後も日本で一定期間定住し、育児を含めた生活を営んでいく状況にあるものの、そのような各ケースの状況を見据えた看護の視点はまだまだ十分とはいえない。これまでの行われた先行研究により外国人妊産婦とその家族への看護支援に関する知見は徐々に蓄積されつつある。これらの知見を医療現場の看護活動とすり合わせ、臨床現場における円滑な実践につながる実働させるシステムづくりは、今後の重要な課題であると考えられた。

そこで本研究では、外国人妊産婦が妊娠期間中や退院後の育児生活において、大きな影響要因となる日本人家族など他の家族員との関係など生活に関する状況を見据えた看護ケアシステムを試み、その効果を検討することによって、今後の在日外国人妊産婦へのケアを中心とした外国人女性への周産期におけるケアシステムのあり方を提言していくことを計画した。

2. 研究の目的

本研究では、外国人妊産婦の生活状況に大きな影響を与える日本人家族など他の家族員との関係性を中心に、生活状況を見据えての看護支援のあり方の提案を目的とした。その際、各施設の実情に合わせ、効果的に実働する外国人妊産婦へのケアの提供に向けた示唆を得ることをめざし、研究と看護実践現場が連動しながら、方策を見出すアクションリサーチ法を参考とした方法を基盤に展開した。具体的には以下の3点の目標を設定し、研究を遂行した。

施設勤務助産師を対象に、外国人妊産婦と日本人家族の関係構築など生活状況を見据えた看護の導入にあたっての現状や課題、考えうる対応策、連携をとるべき機関等を明らかにする。

施設勤務助産師とともに、で明らかとなった課題に対する取り組みを実践する。

実践した取り組みを評価し、外国人妊産婦への看護支援のあり方を考察する。

3. 研究の方法

(1) 研究目標 「外国人妊産婦へのケアの現状と課題の把握」

A 県内で外国人妊産婦が定期的に利用する施設の助産師を対象としたグループインタビューを実施。具体的な方法を以下に示す。

研究協力者の選定

研究協力者は助産師 10 名程度。外国人

妊産婦のケア経験が豊富な者を優先し選定した。

研究内容、方法

外国人妊産婦と日本人家族や他の家族員との関係性など生活状況を見据えた看護の現状や課題、考えうる対応策、連携をとるべき機関等を把握した。方法はグループ・フォーカス・インタビューの方法論を参考に行った。面接内容は研究協力者の同意を得て IC レコーダーに録音した。日時、場所については研究協力者の希望を最優先し、計画した。

分析方法

面接終了後はただちに面接内容を記述し、同時にフィールドノートを作成した。その後、内容比較分析法を基盤とし、現状や課題の具体について分析した。

倫理的配慮

研究協力者に対して、研究の主旨や方法、参加の自由意思、途中辞退の自由、プライバシーの保護、個人情報守秘の厳守、研究論文の公表の可能性について、文書を用いて口頭で説明、同意書を得た。なお、研究者の所属先ならびに当該施設における研究倫理委員会の審査を受けて調査は実施した。

(2) 研究目標 「課題に対する取り組みの実践について」

研究コアメンバーの選定

当該施設の病棟棟長と相談し、アクションリサーチをとともに展開するコアメンバーの選定を行った。外国人妊産婦へのケア経験が豊富である者、関心の高い者を中心に選定した。

取り組み内容の選定

グループインタビューで把握された現状と課題等に関する情報ならびにコアメンバーが把握した取り組みを優先する内容についてのスタッフの意見をすり合わせ、2つの取り組み内容を選定した。またこれからの調査の概要や進め方についてのスタッフへの説明会を開催し、関連する書籍や打ち合わせ資料の配架と自由な閲覧など、病棟内におけるスタッフへの協力体制づくりも並行して行うこととした。

実践 1 「外国人妊産婦とその家族が受けたケアに対する評価の把握」

第1点の取り組み内容は、外国人妊産婦とその家族が実際に受けたケアに対する評価の把握であった。具体的には当該施設でのケアを受けた外国人妊産婦とその家族を対象に面接調査を実施。必要時、通訳を同席しての調査を行うこととした。この調査についても、研究者の所属先ならびに当該施設における研究倫理委員会の審査を受けて実施した。

実践 2 「要望をすいあげるなどコミュニケーションの充実に向けた実践」

第2点の取り組み内容は、特に日本語以外の言語を用いる外国人妊産婦とその家族の意見や要望をすいあげるためコミュニケ

ーションの充実に向けた実践であった。具体的には()病棟内の表記を日本語と英語の併表記にすること、()タブレットの翻訳サイトを活用する取り組み、()英語表記媒体の作成(病棟内案内図、保健指導用パンフレットなど)であった。

(3) 研究目標 「取り組みの評価」について

上記2点の取り組み内容を、それぞれの方法にのっとって分析・評価した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

研究目標 「外国人妊産婦へのケアの現状と課題の把握」

A 県内で外国人妊産婦が定期的に利用する施設の助産師 10 名を対象としたグループインタビューを実施した結果、対象となる外国人は留学生とその家族であることが多く、国籍は多彩、付き添いはおらず、英語以外の言語が必要な状況もあることが把握できた。これに関連し、助産師たちは健診結果や必要書類の説明、分娩入院時の電話対応等に困難を来していた。一方、お祈りや付き添い、食事や新生児のミルクの対応など、文化的側面への対応はほぼできており、家族の関係性も特に問題のあるケースは少なく、育児指導を主に展開している状況もわかった。しかし、市町村保健師や国際交流協会など他機関との連携は少なく、退院後の生活状況の把握も乏しいという現状があった。また、助産師においては個々に経験した知見を頼りに看護ケアを試行錯誤で提供しており、組織的な知の伝承や共有はなされていないことも把握できた。

研究目標 「要望をすくいあげるなどコミュニケーションの充実に向けた実践」

コアメンバーが主体となり()病棟内の表記を日本語と英語の併表記にすること、()タブレットの翻訳サイトを活用する取り組み、()英語表記媒体の作成(病棟内案内図、保健指導用パンフレットなど)を行った。病棟内の他のスタッフをまきこんでの具体的な取り組みがなされた。

研究目標 「取り組みの評価」

上記2点の取り組み内容を、それぞれ方法にのっとって分析した結果、個人間で蓄積されていたケア方法に関するチーム内での共有と、具体的な支援方策の見出しにつながり、個々の助産師における外国人妊産婦へのケアの関心の高まりや、ケアの質的向上を意識した関わりを具体的に考えるという行動変容につなげることができた。

(2) 得られた結果の国内外における位置づけとインパクト

外国人妊産婦は全国各地域において、その国籍、在留資格に特徴をもつ。安全安楽な妊娠・出産の支援においては大きな成果を挙げている日本の周産期システムである一方、一定期間、日本で生活する外国人の

状況を見据えての支援はいまだ途上である。今回、先行研究等で徐々に蓄積されつつある生活の視点をより強化した外国人妊産婦へのケアのあり方について、研究と看護実践現場との協働で展開するアクションリサーチ法を参考にした方法論をもとに研究を展開した。今回の研究により、コアメンバーを中心にした自由で実践的な取り組みのヒントが様々発見されることとなった。今回の直接的な成果は小さなものであるが、今後の現場での個別性への対応や、取り組みの継続性、発展性を考慮すると、大きな実績につながるものと考えられる。

(3) 今後の展望

先行研究等で徐々に蓄積されつつある生活の視点をより強化した外国人妊産婦へのケアのあり方について、研究と看護実践現場との協働で展開するアクションリサーチ法を参考にした方法論をもとに研究を実施した。今後は、今回、得た事柄と経験したプロセスをもとに、実践者が主体的に問題意識と改善策の展開を持続していくことができるか、その支援策を構築することが重要な課題であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

蛸崎奈津子:多文化共生 外国人からみた岩手県 岩手からみた世界、いわて男女共同参画フェスティバル 2012、分科会(コー

ディネーター) 2012.

蛎崎奈津子：日本における外国人医療の現状、医療通訳研究会(MEDINT)看護部会；外国人医療と看護教育、2011.

6. 研究組織

(1)研究代表者

蛎崎 奈津子 (KAKIZAKI, Natsuko)

岩手県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：80322337

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：